

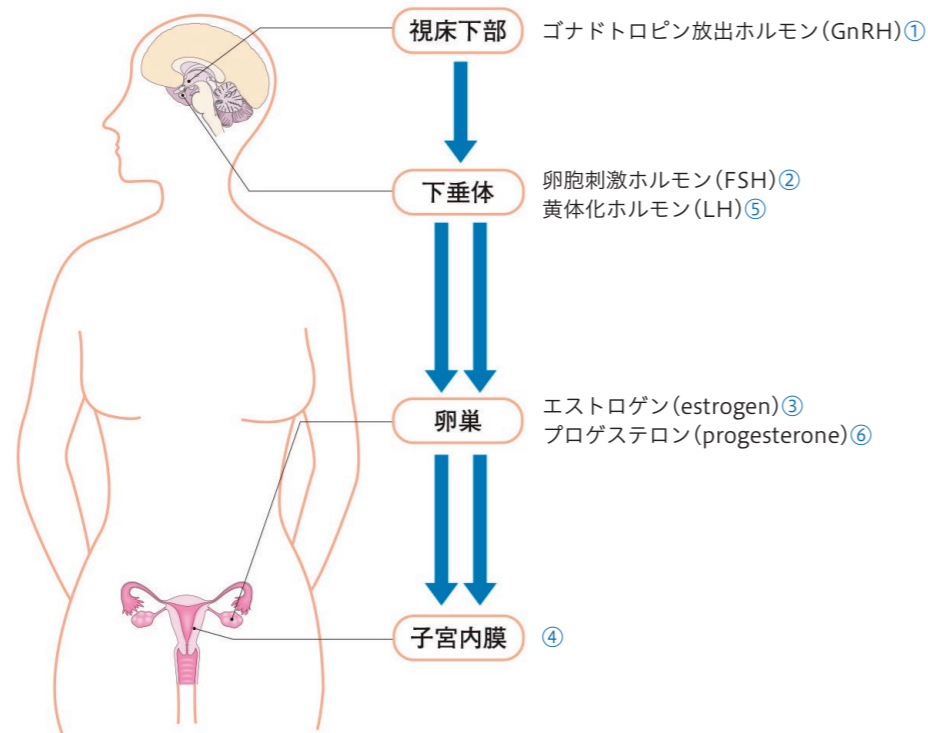
I 女性の生殖に関わるホルモンとその役割

女性の生殖機能に中心的な働きをするホルモンは、脳の視床下部から分泌される「ゴナドトロピン放出ホルモン (gonadotropin releasing hormone: GnRH)」、脳下垂体から分泌される「卵胞刺激ホルモン (follicle stimulating hormone: FSH)」と「黄体化ホルモン (luteinizing hormone: LH)」、卵巣から分泌される「エストロゲン (estrogen)」と「プロゲステロン (progesterone)」の5つになります。

GnRHとFSH、LHは卵胞の発育と排卵、エストロゲンとプロゲステロンは子宮内膜を厚くする、妊娠しやすい状態を維持するといった役割を持っています。

性周期における卵胞の発育とホルモン・子宮内膜の変化

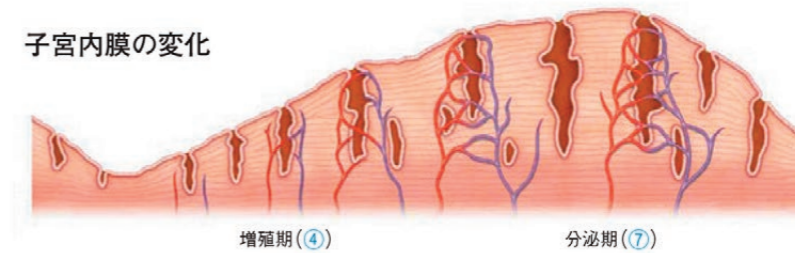
- ① 視床下部からGnRHが分泌され、脳下垂体に作用します。
- ② GnRHの刺激を受けた脳下垂体からはFSHが分泌されます。
- ③ FSHによって卵胞の発育が進み、卵胞からエストロゲンが分泌されます。
- ④ エストロゲンの働きによって子宮内膜の厚みが増していきます。
- ⑤ エストロゲンの上昇とともにLHが脳下垂体から大量に分泌されて、排卵が起こります。
- ⑥ 排卵後はFSH、LHが急速に低下、卵巣からエストロゲンと共にプロゲステロンが分泌されます。
- ⑦ エストロゲンやプロゲステロンにより、子宮内膜が着床しやすい状態となります。
- ⑧ 妊娠が成立しない場合はエストロゲンとプロゲステロンが減少し、子宮内膜は剥離して月経となって排出されます。



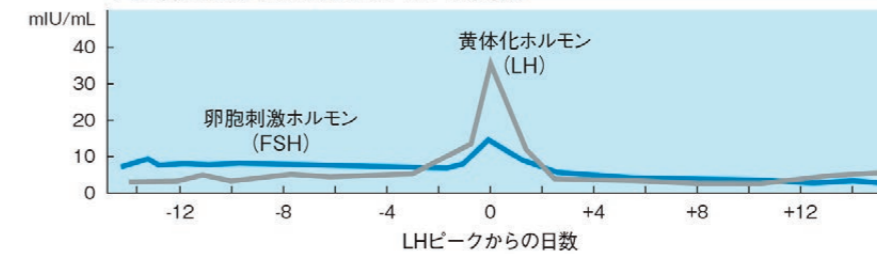
卵巣内における卵胞の変化



子宮内膜の変化



下垂体から分泌されるホルモンの変化



卵巣から分泌されるホルモンの変化

